

流域治水

を知って、始めよう

荒川上流河川事務所 × ブルーモーメント (KADOKAWA)

みんなが参加する、 これからの治水

気候変動により雨の降り方が変わってきたため、治水対策のあり方にも変化が求められています。河川のはん濫を防ぐために行政に加えて住民や企業も参加して様々な対策を講じ、被害を抑えるのが「流域治水」。流域治水は、みんなができることから始める「これからの治水対策」です。



洪水はん濫、土石流や土砂崩れ
水災害が身近で発生している
あなたにできること、それは――

BLUE MOMENT

流域治水の取り組みが始まりました

気候変動の影響で猛威を振るう水害に備え、治水対策を転換しなければなりません。これまでの流域は、雨水などが荒川に集まる地形全域を指します。流域治水では、これにはん濫が発生すると浸水してしまう地域(はん濫域)を加えて「流域」とみなし、総合的で多層的な対策を講じます。



浸水した乗用車=6月3日午前9時15分ごろ、さいたま市緑区(埼玉新聞)

柱は3本。「氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策」「被害対象を減少させる対策」「被害を軽減、早期復旧・復興のための対策」です。その主体になるのは、河川管理者だけでなく「流域」に暮らすあなたを含めたあらゆる関係者です。荒川流域では流域治水プロジェクトが始まりました。

流域治水って、なにをするの?

堤防の整備や河道掘削、洪水調節施設の整備などこれまでの治水対策を加速するだけでなく、降った雨を一時的に「ためる」ことで、川に流れ込まないようにする対策などが進んでいます。

田んぼダムなどの新しい発想や、住宅での雨水貯留タンクの設置。水害リスクの低い地域への移転促進や住まい方の工夫、高台避難所の整備などの対策を盛り込んだまちづくりが進んでいます。

荒川水系流域治水プロジェクト



で 検索

流域治水 byAll

荒川では 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすために

洪水を安全に流す対策と、雨水を貯める対策を進めています。

洪水を安全に流す対策

- 堤防の整備・強化
- 川幅を広げる・川底を掘る
- ダム等の事前放流
- 浸水地を整備

雨水を貯める対策

- 公園・緑地で貯める
- 田んぼやため池で貯める
- 森林整備で雨水を蓄える
- 自宅で貯める



荒川上流
河川事務所



漫画家・小沢かなさんの『BLUE MOMENT ブルーモーメント』(KADOKAWA 刊、荒木健太郎監修)と荒川上流河川事務所がコラボしました。

国土交通省関東地方整備局 荒川上流河川事務所 〒350-1124 埼玉県川越市新宿町3-12 TEL:049-246-6371 <https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo>



荒川上流 で 検索